



かわ版

米穀機構 情報部

No. 21

2012年8月発行

(社)米穀安定供給確保支援機構(米穀機構)情報部
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15-15
TEL.03-4334-2161 FAX.03-4334-2167

米穀機構情報部では、お米に関する様々な情報をホームページ「米ネット」及び印刷物により提供しています。
今回は、農林水産省が平成24年7月に公表した「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」のなかから、米穀の需給見通し、民間流通における6月末在庫について掲載します。
また、当機構が毎月実施している消費動向調査をもとに、23年度における精米の消費量等について紹介します。

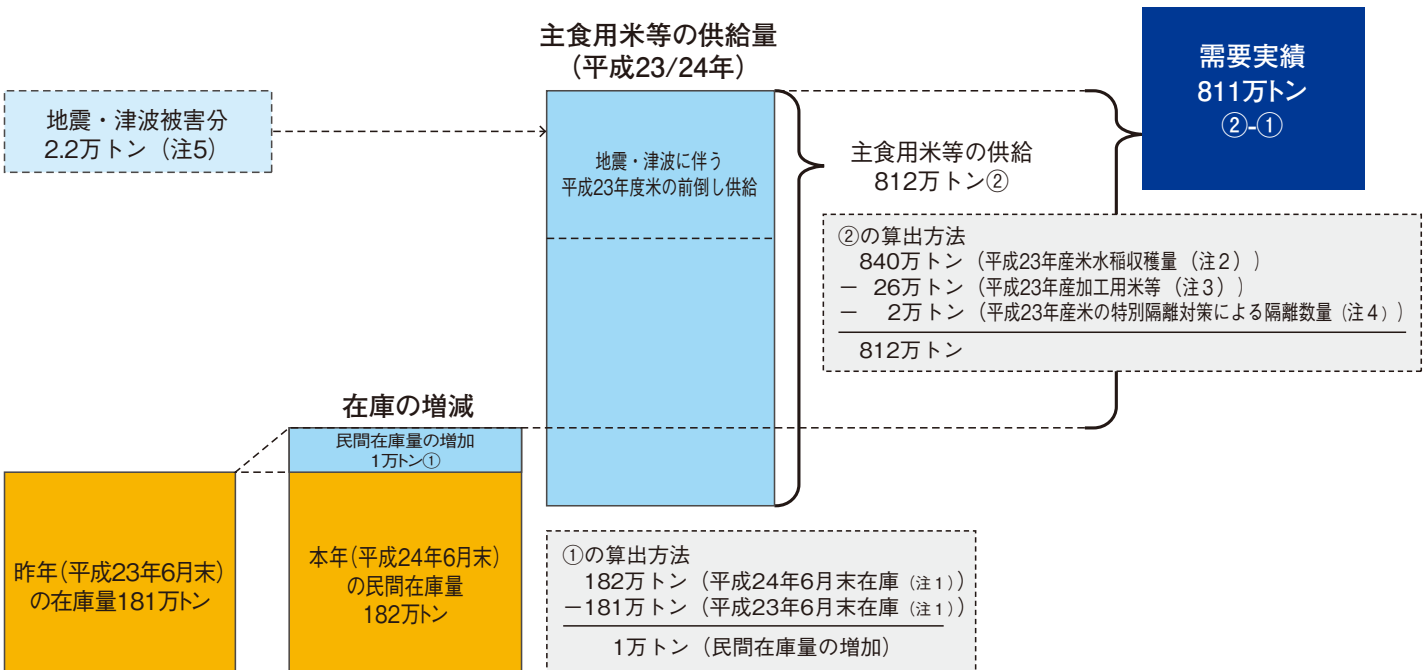
I 米穀の需給見通し

1.平成23／24年の需要実績

平成23／24年(23年7月から24年6月までの1年間)の需要実績(速報値)は図表1のとおり811万トンとなります。

なお、農林水産省は平成23／24年の需要実績について、平成24年11月策定の「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」における確定値報告に向け精査を行うこととしています。

図表1 平成23／24年の需要実績(速報値)



注1:6月末在庫は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫量に10a以上の作付生産者の在庫量推計値を加えたものである。

注2:水稲収穫量は、平成23年産米の水稲収穫量(「作物統計」農林水産省大臣官房統計部)である。

注3:加工用米等は、米穀の需給調整実施要領第3において需給調整の取組として取り扱う米穀等として定める加工用米、新規需要米(飼料用及びバイオエタノール用を除く。)及び備蓄米であって主食用米等に供給されないことが確認された米穀である。

注4:平成23年産米の特別隔離対策による隔離数量は、平成23年産米の特別隔離対策に従い、500 Bq/kgを超える放射性セシウムが検出され出荷制限が課された地域及び100 Bq/kg超から500 Bq/kg以下の数値が検出され福島県から出荷見合わせが要請された地域において、生産者が生産した平成23年産米を市場流通から隔離する数量(見込み)である。

注5:地震・津波被害は、全国出荷団体及び全国米穀販売事業共済協同組合からの聞き取りである。

注6:ラウンドの関係で計が一致しない場合がある。

図表2 平成23/24年(平成23年7月から平成24年6月まで)の需要実績(速報値)

(単位:トン)

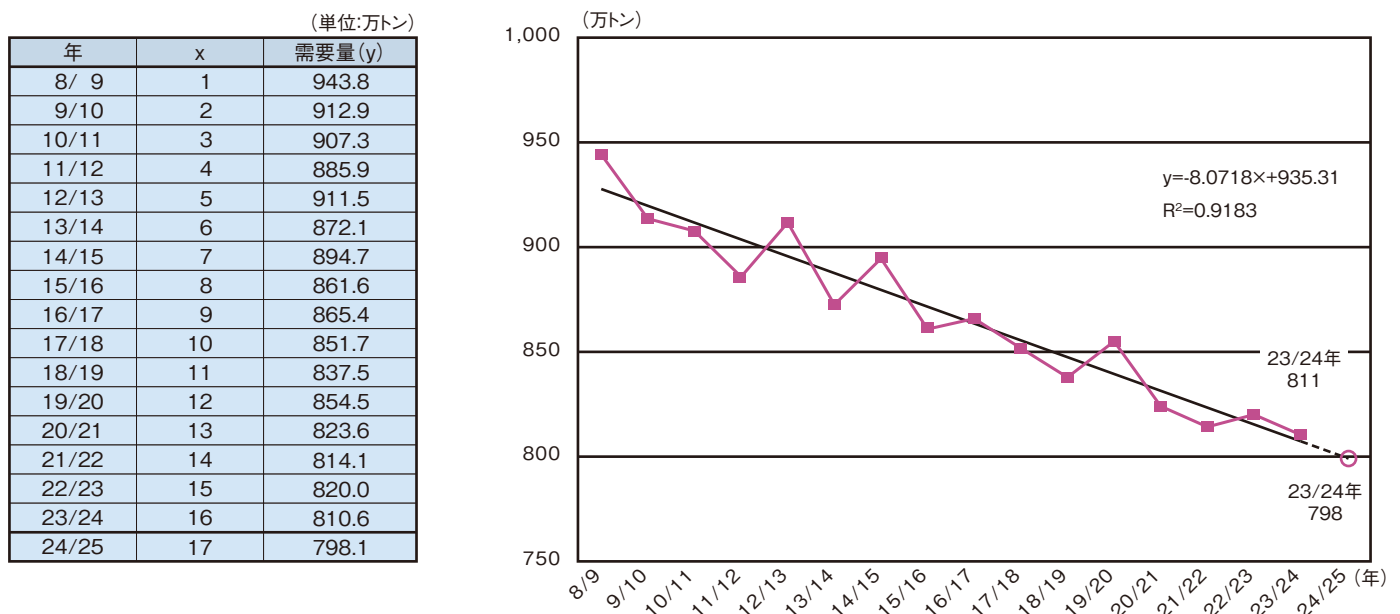
都道府県	23年6月末 在庫①	23/24年 供給量②	23年6月末 在庫③	全体需要量 ④=①+②-③	都道府県	23年6月末 在庫①	23/24年 供給量②	23年6月末 在庫③	全体需要量 ④=①+②-③
全国	1,806,588	8,123,344	1,823,827	8,106,106	三重	18,810	146,284	19,337	145,757
北海道	174,680	613,598	165,943	622,335	滋賀	28,536	164,421	29,241	163,716
青森	68,269	272,090	60,147	280,212	京都	12,863	78,505	14,122	77,247
岩手	115,638	284,881	89,254	311,265	大阪	5,983	28,763	5,659	29,088
宮城	126,710	365,727	80,474	411,962	兵庫	34,104	186,289	36,266	184,127
秋田	119,077	451,486	122,838	447,725	奈良	8,224	48,121	10,140	46,205
山形	111,757	374,090	92,335	393,512	和歌山	4,987	37,300	5,970	36,317
福島	87,922	336,544	118,823	305,644	鳥取	13,290	71,294	16,451	68,133
茨城	51,739	388,271	66,688	373,322	島根	17,645	96,672	19,432	94,884
栃木	67,434	336,843	74,304	329,973	岡山	38,974	174,052	30,221	182,805
群馬	15,208	83,789	16,660	82,337	広島	26,653	133,421	24,423	135,651
埼玉	13,473	169,202	20,981	161,693	山口	25,025	115,379	20,461	119,943
千葉	36,673	318,181	46,921	307,933	徳島	8,421	60,993	8,348	61,065
東京	133	700	199	634	香川	17,092	70,368	14,655	72,806
神奈川	2,344	16,500	3,456	15,388	愛媛	12,490	76,855	11,027	78,318
新潟	92,336	581,488	133,785	540,039	高知	8,147	58,965	7,978	59,135
富山	39,855	201,151	42,303	198,703	福岡	34,531	191,896	33,294	193,133
石川	24,343	133,443	27,552	130,234	佐賀	37,187	139,931	35,781	141,337
福井	23,255	133,822	26,082	130,995	長崎	13,308	66,494	11,220	68,581
山梨	5,543	28,626	5,178	28,991	熊本	37,246	193,553	39,632	191,167
長野	40,283	203,726	41,860	202,149	大分	20,598	116,954	21,810	115,742
岐阜	28,397	118,493	27,374	119,517	宮崎	16,001	92,091	15,657	92,435
静岡	12,400	92,171	17,049	87,522	鹿児島	22,150	114,757	22,732	114,175
愛知	23,633	152,626	28,926	147,333	沖縄	40	2,540	8	2,572

注:1) 全国覧は、産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、都道府県の合計と一致しない。
 2) ラウンドの関係で計が内訳と一致しない場合がある。

2. 全国の平成24/25年の需要見通し及び需給見通し

平成24/25年(24年7月から25年6月までの1年間)の全国の需要見通しは、平成16年7月策定の基本指針において最近の米の消費量を踏まえて採用した手法により、平成8/9年(8年7月から9年6月までの1年間)以降から直近の平成23/24年までの全国の需要実績を用いて、トレンド(回帰式)で算出すると、図表3のとおり798万トン(速報値)となります。

図表3 平成8/9年～平成23/24年の全国の需要実績を用いた算出方法



また、平成24年産米の生産量を生産数量目標793万トンで仮置きし、23／24需要見通しを踏まえると、平成24／25年の需給見通しは、図表4のとおりとなります。

図表4 平成24／25年の主食用米等の需給見通し

(単位:万トン)

		主食用米等
平成24年6月末民間在庫量(速報値)	A	182
平成24年産米生産数量目標	B	793
平成24／25年備蓄米代替供給量	C	4
平成24／25年主食用米等供給量計	D=A+B+C	979
平成24／25年主食用米等需要量(速報値)	H	798
平成25年6月末民間在庫量	I=G-H	181

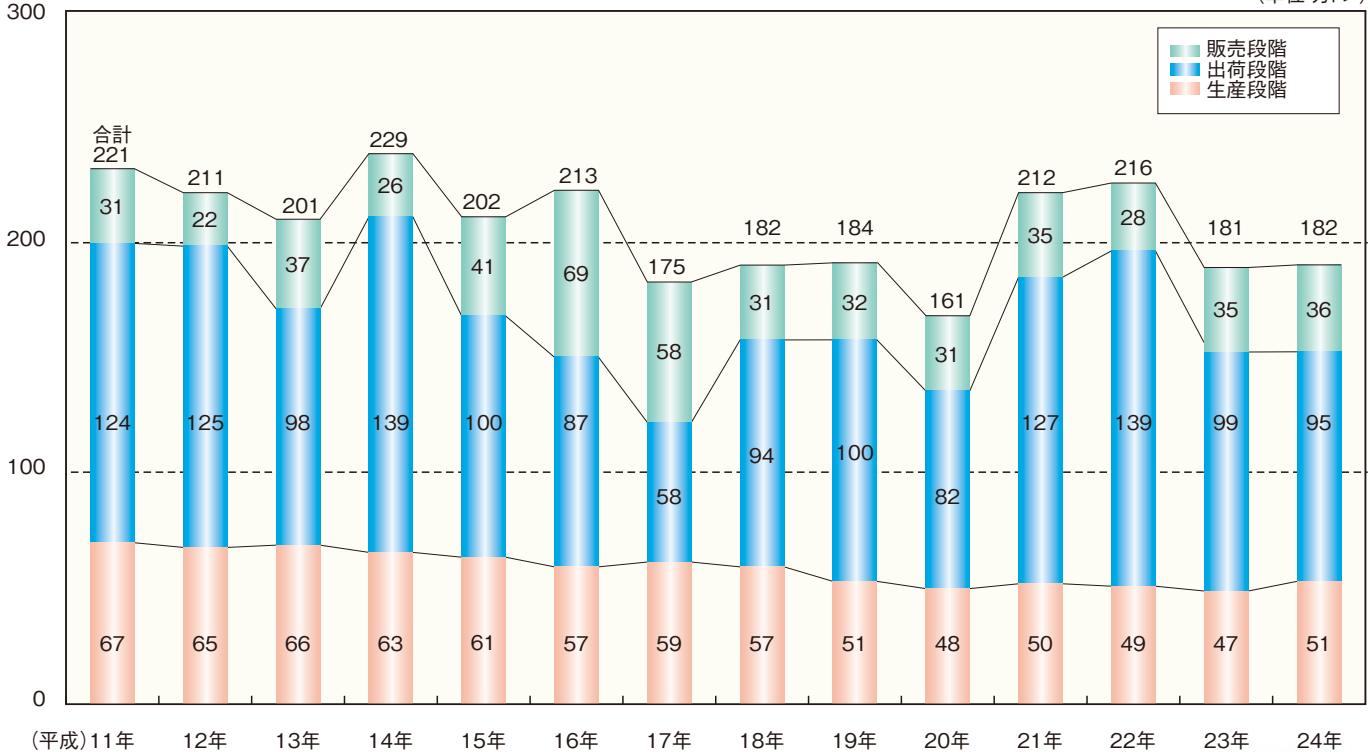
注:平成24/25年備蓄米代替供給量は、①東日本大震災により、倉庫に保管されていた平成22年産米が被災し、これを平成23年産米で埋め合わせる形で供給が行われたこと、②特別隔離対策(100 Bq/kgを超える平成23年産米の特別隔離対策)の対象となる米が市場隔離されること、から供給量が減少したことに伴い、①及び②に見合う量4万トン(震災による倉庫被災分2万トン程度+特別隔離対策による隔離数量2万トン程度)の代替供給を政府備蓄米から行う数量である。

II 民間流通における6月末在庫

米穀の民間流通における6月末在庫は、図表5のとおり平成16年6月末までは、200万トンを上回っていましたが、平成17年6月末以降は平成21年及び平成22年6月末を除き、161万トンから184万トンの範囲で推移しています。

図表5 民間流通における6月末在庫の推移

(単位:万トン)



資料:農林水産省調べ

注:1)うるち玄米及びもち玄米の値である。

2)各年の民間在庫量において、

①平成16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者(販売・出荷段階)の数量である。

②平成15年については、

・販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量である。

・出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。

③平成14年以前については推計値であり、

・販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量(推計)を加えた数量である。

・出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量(推計)を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」(平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」)を基に算出した在庫量から精米在庫量(推計)を控除した玄米在庫量である。

3)ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。



<米の消費動向>

当機構では、平成23年4月から、全国の消費世帯を対象としてインターネットによる米の消費動向調査を毎月行い、調査結果をホームページ「米ネット」に掲載しています。平成23年4月から1年間の調査における、(1)精米の消費量、(2)購入時に重視する点、(3)購入・入手経路はつぎのとおりです。

(1) 精米の消費量

1人1ヵ月当たりの精米消費量は4,841グラムで、うち家庭内の消費量は3,211グラム、家庭外においては、中食が928グラム、外食は701グラムでした。

なお、最近3ヵ月(平成24年4月から6月)の消費量を前年同時期と比べると、ほぼ同水準で推移しています。

1人1ヵ月当たり精米消費量

(単位:グラム、%)

消費量	家庭内		家庭外(中食)		家庭外(外食)	
	消費量	割合	消費量	割合	消費量	割合
4,841	3,211	66.3	928	19.2	701	14.5

注:1)消費量は30日分で算定している。

2)ラウンドの関係で計が内訳と一致しない場合がある。

(2) 精米購入時に重視する点

精米を購入・入手する際に重視する点について、最も多いのは「価格」となっており、ついで「品種」、「産地」となっています。

精米購入時に重視する点(平成23年4月から平成24年3月の平均)

(単位:%)

回答内容	割合	回答内容	割合	回答内容	割合	回答内容	割合
価格	77.8	食味(おいしさ)	48.8	精米年月日	27.4	販売店	4.6
品種	51.4	年産	36.6	適量感	9.0	栽培方法	4.5
産地	49.8	安全性	31.1	製造販売業者	7.7	その他	5.0

(3) 精米の購入・入手経路

精米の購入・入手経路について、最も多いのは「スーパーマーケット」となっており、ついで「家族・知人などから無償で入手」、「生協(店舗、共同購入含む)」となっています。

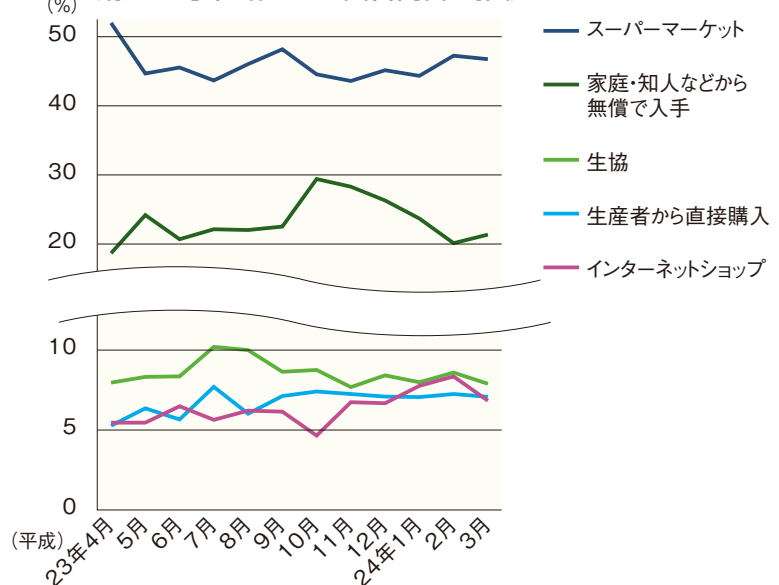
また、回答の中で「生産者から直接購入」、「インターネットショッピング」の割合が増えています。

精米の購入・入手経路(平成23年4月から平成24年3月の平均)

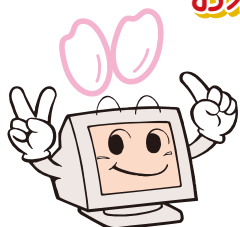
(単位:%)

回答内容	割合
スーパーマーケット	45.9
家庭・知人などから無償で入手	23.5
生協(店舗、共同購入含む)	8.6
生産者から直接購入	6.8
インターネットショップ	6.4
ディスカウントストア	4.2
米穀専門店	3.8
ドラッグストア	3.7
農協(店舗、共同購入含む)	1.4
産地直売所	1.3
デパート	0.7
コンビニエンスストア	0.4
その他	2.2

購入・入手経路の主な回答割合の推移



お米・ごはん情報満載のホームページ 米ネット



米穀機構のホームページ「米ネット」では、お米の価格・消費・生産などの統計データをはじめ、生産者及び販売業者の皆様向けにお米に関する最新の情報を常時提供しています。

また、生産者及び販売業者の皆様からの「米ネット」に関するご提案・ご要望をお待ちしております。

「お米生産・流通・価格ゾーン」、「生産者のコーナー」等の中の「このページについての意見・感想を投稿する」の投稿フォームからEメールをご利用ください。皆様のアクセスをお待ちしています。

ホームページアドレス <http://www.komenet.jp/>